

# 目 次

## 1 資材管理の成長

第1章	新しい資材管理	3
	1 資材管理の内容	3
	2 これからの資材管理の役割	9
第2章	効かせる資材管理	11
	1 資材を使用するにあたって	11
	2 手持ち資材の運営	13
第3章	価値工学よりする資材管理	16
	1 価値分析より価値工学へ	16
	2 価値工学について	17
	3 価値工学と資材管理	21
	4 価値分析とその対象について	25
	5 価値分析の方法	28
	6 価値分析のフィルター	32
	7 購買品の価値分析	34
	8 V.E 追究のシステム	41
第4章	参考までに、わが国の資材管理の研究過程をみると	42
第5章	世界会議	44
第6章	資材の取扱上における最終価格論の展開	50
	1 最終価格論の概要	50
	2 資材管理への展開	51
第7章	革新途上の包装	56
	1 包装に対する考え方	56
	2 新しい包装	57
	3 新しい包装材料	60
	4 今後の包装	61
第8章	成長の軌道	63

## 2 目 次

1 組織，制度において購買機構の廃止	63
2 計画・事務・指示などにおいてコンピューターの活用	64
3 購買秩序	67
4 購買業務において信用限度・取引限度方式の浸透	68
5 業者選定の科学性	71
6 共益制度	77
7 購買価格算定上の問題点に対する見解	79
8 新しい在庫の考え方——そこに物があるという考え方が——	82
9 流通革新の上になつて——物は流れている——	84
10 新倉庫計画——あちらこちらにターミナル倉庫，オートメ化倉庫 が出現——	85

## 2 新方式の展開

第9章 数量管理に重点をおく資材管理	91
1 数量管理をこのように考える	91
2 数量管理の3つの課題	92
3 ねらいどころ	94
第10章 無人購買方式	96
1 新しい購買方式を求めて	96
2 従来の購買方式への挑み	98
3 無人購買への歩み	103
4 購買の専門会社	104
第11章 資材の無停滞方式	106
1 現実の状態	106
2 資材の停滞	108
3 無停滞方式	110
第12章 在庫ゼロ方式	113
1 まず在庫管理について	113
2 在庫ゼロとは	119
3 在庫ゼロへのテーマ	121
4 在庫ゼロ方式	126
第13章 第3の在庫方式	130
1 在庫革命	130

2	第3の買い場にしたがって—第3の在庫—	131
3	参考として第5の買い場を—第5の在庫—	133
第14章	マテリアルス・ハンドリングよりマテリアルス・マネジメント 方式へ	134
1	マテリアルス・ハンドリングの浸透度	134
2	マテリアルス・ハンドリングからマテリアルス・マネジメントへ	136
3	オートメーションへの動き	139
第15章	機械化する倉庫	142
1	機械化する必然性	142
2	機械化への前提	143
3	機械化方式	144
4	参考として荷役運搬機械の選択基準を	148
5	記憶装置による自動化倉庫	152
第16章	今後の新しい倉庫設計の方法	154
1	これからの倉庫設計への提言	154
2	新しい倉庫設計の方法	156
3	主なる注意事項について	165

### 3 新しい課題

第17章	資材管理への一般的課題	169
1	資材管理強調月間の施行	169
2	利益を生む資材管理をする	169
3	こちらを向いてほしい	170
第18章	第3の買い場	171
1	変貌する購買の場	171
2	売り場と買い場との間	173
3	第3の買い場	175
4	秩序ある購買の場	180
第19章	在庫管理費を中心としての課題	182
1	在庫品を管理するための費用について	182
2	在庫管理費をもととする見方	184
3	在庫管理費の内容	185

#### 4 目 次

4	在庫管理費率の値	190
5	在庫管理費率の利用	192
第20章	後入先出方式の在庫管理——直行方式的在庫管理——	195
1	これまでの在庫管理の考え方——貯水池方式——	195
2	新しい考え方として——直行方式——	198
3	直行方式の実際	201
第21章	革新的な倉庫	205
1	台頭する倉庫革命	205
2	近代的な倉庫管理として	208
3	動く倉庫	211
4	ターミナル倉庫	215
5	コンビナート倉庫	219
6	無倉庫方式	220
第22章	無人倉庫	221
1	無人倉庫の形成	221
2	無人倉庫の利害得失	224
3	無人倉庫の現実	226
4	倉庫そのものを自動販売機とする無人倉庫	227
第23章	無人運搬	230
1	無人運搬への構想	230
2	無人運搬の可能性	234
3	ロボット	234
第24章	明日の資材管理方式への2つの課題を取り上げて	236
1	信頼性工学の資材管理への導入	236
2	モジュラー生産がもたらす資材管理への影響	239

#### 4 資材管理の接点

第25章	現物を中心とする流通革命からみた資材管理の行方	245
1	現物を中心とする流通問題	245
2	物資の流通革命の現状と将来	249
3	その流通革命からみた資材管理の行方	252
第26章	包装技術面からみる物的流通の将来像	255

1	まず、国鉄においては	255
2	道路上においては	256
3	地下もまた	256
4	空にあっては	257
5	海上においては	257
第27章	つぎの輸送革新をになうものは何か	259
1	それを推察する基盤として	259
2	コンテナか	260
3	パレットか	261
4	ところがダークホースとして	263
第28章	購 買 倫 理	264
1	購買倫理研究のすすめ	264
2	いまさら何んのための購買倫理か	265
3	購買倫理の課題を求めて	266
4	実際問題として	271
5	購買倫理の課題とまとめ	275
第29章	人と物との安全管理	276
1	人の安全管理	276
2	人の安全を運搬面からとらえて	283
3	物の安全管理	294
第30章	信用管理方式	295
1	人を信用する	295
2	人を信用して取り除ける資材管理の内容のかずかず	297
3	信用管理の方法	299
4	その実例2, 3	299
第31章	空間利用の問題——空間を利用するラックと倉庫について——	302
1	多彩なラック時代の訪れ	302
2	ハイ・ラック	303
3	動く棚	304
4	積層棚	305
5	これからが見もの	307
第32章	経済的接点	308
1	採算点の反問	308

6 目 次

2 荷役・運搬・保管設備の経済計算 .....	309
〔付〕 参考となる文献 .....	313
索 引 .....	321